

施策マネジメントシート1 (25年度目標達成度評価)

作成日 平成 26 年 6 月 11 日  
更新日 平成 26 年 7 月 2 日

総合計画体系	政策No.	2	政策名	みどり豊かな環境と共生するまちづくり	施策統括部	事業部	部長名	齋藤 正昭
	施策No.	9	施策名	住環境の充実	施策主管課	都市計画	課長名	中島 真由美
				関係課	総務課・企画課・商工振興課・環境衛生課・上下水道課・農政課、市民課			

1 施策の目的と指標

- ① 対象(誰、何を対象としているのか) \* 人や自然資源等  
市民
- ② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)  
快適な住環境で暮らすことができる

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) \* 数字は記入しない

名称		単位
A	人口	人
B		
C		

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) \* 数字は記入しない

名称		単位
A	よい住環境であると答えた市民の割合	%
B		
C		
D		
E		
F		

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

成果指標Aは市民意識調査にて把握。  
設問「あなたの住んでいるところは、良い住環境だと思いますか。」  
選択肢: 1. とても良いと思う 2. どちらかといえば良いと思う 3. どちらかといえば悪いと思う 4. とても悪いと思う  
⇒1及び2を選択した人の割合

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	21年度現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
対象指標	A	人	見込み値	56,281	56,829	57,377	57,925	58,474	
			実績値	56,638	57,367	58,237			
	B		見込み値						
			実績値						
	C		見込み値						
			実績値						
成果指標	A	%	成り行き値	88.5	88.4	88.3	88.2	88.1	
			目標値	89.1	89.3	89.5	89.7	89.9	
		実績値	88.7	91.3	90.8	91.9			
	B		成り行き値						
			目標値						
		実績値							
	C		成り行き値						
			目標値						
		実績値							
	D		成り行き値						
			目標値						
		実績値							
	E		成り行き値						
			目標値						
		実績値							
	F		成り行き値						
			目標値						
		実績値							
事務事業数			本数	36	35	33	33	32	
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	11,745	34,364	50,499	37,757	48,170
			都道府県支出金	千円	102	151	82	0	134
			地方債	千円	13,300	164,000	382,200	261,040	84,000
			その他	千円	864,270	771,447	1,102,748	1,296,366	966,646
			繰入金	千円	5,027	6,171	0	2,060	2,200
			一般財源	千円	62,087	66,348	71,951	61,118	58,450
			事業費計(A)	千円	956,531	1,042,481	1,607,480	1,658,341	1,159,600
			(A)のうち指定経費	千円	506,985	467,194	213,895	524,907	527,278
			(A)のうち時間外、特殊勤務手当	千円	2,390	1,020	168	1,543	1,602
			延べ業務時間	時間	30,561	21,261	17,659	18,727	18,927
	人件費計(B)	千円	123,387	86,548	70,353	76,238	77,052		
	トータルコスト(A)+(B)			千円	1,079,918	1,129,029	1,677,833	1,734,579	1,236,652
基本計画期間における施策の目標設定とその根拠 (水準の理由と前提条件)			A: 良い住環境であると答えた住民の割合は、平成21年度までの実績値でも高い水準にあるが、公園等の施設の老朽化や個人ごとの価値観等の違いによる騒音、悪臭等への苦情が微増することが懸念されることを踏まえると、成り行き値は、微減すると考え、平成27年度を88.1%とした。目標値については、今後、公共施設の維持管理を適正に進め、市民との協働により、良い住環境を創りあげること、目標値を、最高実績値であった平成21年度を上回る89.9%に設定した。						
基本計画期間における施策の方針			① 土地利用基本計画に基づき里山を保全していく。(みどりの景観の保全より) ② 快適な住環境をめざし、市民の身近な公共施設を計画的に更新していく。						

## 施策マネジメントシート2(25年度目標達成度評価)

住環境の充実

### 3 施策の特性・状況変化・住民意見等

【1】この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

- ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
- ・市民は、身近なところから良い住環境になるよう意識して行動する。
  - ・市民は、公園等の公共施設を大切に利用する。
  - ・地域では、公共施設がみんなの施設であることを認識し、維持管理等に積極的に協力する。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・市民との協働により、良好な住環境を創りあげるための取り組みを進める。(啓発、指導を含む。)
- ・市民が、安心して安全に使用できるよう公共施設等の整備、維持管理を行なう。
- ・公害の防止については、法令等に基づき適切な指導を行なう。

【2】施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成27年度を見越して)

- ・平成25年度に作成した「公営住宅等長寿命化計画」に基づいた公営住宅改修等が必要になってくる。
- ・給水人口の増加に伴う新たな配水池、水源地の整備拡充が必要となる。
- ・平成24年度に策定した水道ビジョンに基づき、老朽化した水道施設(配水池・水源地・配水管)の改修や新設を計画的に進める必要がある。また、大震災以降、災害に備えた耐震対策の強化が求められている。
- ・高齢化社会になってきているため、市営住宅の居住者も高齢化し、バリアフリー化を望む声がさらに強くなる。
- ・現在、市街化区域に隣接した南部地域に開発が集中しており、今後数年間は続くことが予想されるため、周辺の道路や交差点の改良、上下水道、特に学校や保育所等のインフラ整備が必要になってくる。
- ・自衛隊演習場のヘリコプターの騒音に対する苦情が寄せられているが、周辺の宅地化が進めばさらに多くなることが予測される。
- ・市民一人当たりの公園面積は、以前は国の基準を上回っていたが急激な人口増により基準以下になっている。遊具施設等の老朽化がすすみ改修等が必要になってくる。
- ・市の人口は増えているが、一方では高齢化に伴う空き家等の増加もみられ、市としての対策が求められることが予想される。
- ・「合志市空き家等適正管理に関する条例」の制定に向けた検討が進められている。
- ・熊本県が平成26年度中に策定する予定の地下水涵養や肥料・農薬の削減を目指す条例に呼応した市独自の取り組みを展開し、地下水の保全を図っていく必要がある。

【3】この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・山林が荒れることに伴い、不法投棄が増えているとの声が市民から寄せられている。
- ・市民ワークショップで「緑豊かな地形で、景観がよく空気がきれい。」「緑が豊かで住みやすい」「住宅地の近くに自然が多く残っている」「大きな河川がない」との意見があった。

【平成25年度の施策評価(24年度振り返り)における議会意見】

1. 豊かな自然環境の保全と住環境整備の安全安心の水道事業に努めること。
2. 住民同士のコミュニケーションがとりやすい環境整備をつくること。

【平成25年度の施策評価(24年度振り返り)における総合政策審議会意見】

1. 社会問題化している空き家・空き地について、国の動向を見ながら市として早急な対策をとること。
2. 民間による宅地開発について、公園・道路等将来共に全市一体的に快適な住環境となるよう市として指導を行なうこと。

### 4 施策の評価

【1】施策の目標達成度(25年度目標と実績との比較)

A → O【よい住環境であると答えた市民の割合】  
: 目標値89.5%に対し実績値は91.9%であり、目標は達成できた。】

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

A・住環境における、騒音、振動、悪臭等については周知啓発の強化により苦情件数が減少しており、相談にも即対応している。また、水道の普及率も高く、公園も充実していることが背景として考えられる。  
また、2014年九州沖縄地域の住みよさランキングで1位に輝いた。

※O:目標達成 △:目標をほぼ達成(-5%程度) ×:目標を未達成

【2】施策の振り返り(施策の方針、経営方針の達成度等)

- (1)平成25年度経営方針である、①「安全安心な水道水供給のため、計画に基づき水道施設の整備充実を図る。」については、平成24年度に策定した水道ビジョンに基づき、水道水を安定供給するために御代志第2配水池の本体施設の建設を実施するとともに、木原野配水池の建設にも着手し施設整備に努めた。また、老朽化した竹迫地区簡易水道の水源地の施設の更新を行ない整備を行った。今後もこのビジョンに基づき、安心安全な水道水供給に努めていく。
- ②「住宅地の老朽化した道路・側溝等の環境整備を推進する。」については、住宅地内の老朽化した舗装の打ち換えや蓋のない側溝の布設換え、交差点や狭い道路の歩道部分のカラー舗装などを、地元の要望や現地調査に基づき、計画的に整備を進めている。③「農村集落竹林整備事業の見直しを行う。」については、申請者自身での整備も可とし、要件の緩和を行った。④「安心して暮らせる住環境を守るため、雨水・排水対策に取り組む。」については、下水道の雨水計画の見直しも含め対策を進める。平成25年度は大池地区の雨水調整池の建設に取り掛かり、平成27年度の完成を目指し整備を行った。
- (2)事務事業貢献度評価の結果では、平成25年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、屋外燃焼行為対策事業、ごみ一時保管所整備事業補助事業、し尿運搬費補助事業あげられた。

**【3】 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)**

- ・市営住宅の計画的な維持管理。
- ・給水管の計画的な更新。
- ・より良い住環境にしようという意識の啓発。
- ・宅地化に伴う公害苦情への対応。
- ・公園の計画的な改修・長期展望に立った都市計画の見直し。

**5 施策の25年度結果に対する審査結果**

**① 政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成26年7月7日)**

- ・成果指標では目標を十分達成しており、良い住環境であるという現状を維持していくことが必要。

**② 総合政策審議会での指摘事項(平成26年8月6日、8月12日、27日まとめ)**

- ・現状に満足せず、更なる住環境の充実を図ること。
- ・民間による宅地開発に対して、市として長期的な展望を持ったうえで指導すること。

**③ 議会の行政評価における指摘事項(平成26年9月10日)**

- ・空き家対策について検討すること。
- ・豊かな自然環境の保全と安全・安心の水道インフラ整備に努めること。

**6 次年度に向けた取り組み方針**

**● 政策推進本部 平成27年度合志市経営方針(平成26年10月7日)**

1. 安全安心な水道水供給のため、計画に基づき水道施設の整備充実を図る。
2. 市営住宅の長寿命化計画を基に、計画的に整備・維持管理を行なっていく。
3. 農村集落竹林整備事業を推進するとともに里山や樹木等の管理について住民啓発を推進していく。
4. 安心して暮らせる住環境を守るため、雨水・排水対策に取り組む。
5. 社会問題化している空き家等について、国と連動し対策を検討していく。

施策マネジメントシート3(25年度目標達成度評価)

基本事業名	23 環境衛生の充実	基本事業担当課	環境衛生課
-------	------------	---------	-------

対象	市民	意図	衛生的に暮らせる
----	----	----	----------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 環境衛生に対する苦情件数 (騒音、振動、煤煙、悪臭等)	件	(成り行き値)目標値		(33) 24	(33) 24	(33) 24	(33) 24	(33) 24
		実績値	49	15	12	7		
B 苦情に対する対応率	%	(成り行き値)目標値		(86.0) 95.8	(86.0) 95.8	(86.0) 95.8	(86.0) 95.8	(86.0) 95.8
		実績値	83.7	86.7	89.18	96.6		
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

- A: 目標値については、苦情の最も少ない件数であった平成19年度の24件と設定した。  
 B: 目標値については、過去4年間で最も対応率の高かった平成19年度実績値の95.8%を平成27年度まで設定した。

8 基本事業の25年度の振り返り(目標達成度評価)と27年度に向けての課題

- A)平成21年度と比べて騒音等【典型7公害(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、地盤沈下)】に関する相談件数はかなり減少したので、広報等での周知啓発に一定の効果があった。測定結果次第では騒音等の原因者に指導が難しい場合もあるが、任意のお願いをすることで対応していく。また、広報等での周知啓発も継続していく。  
 B)典型7公害に加え屋外燃焼行為等の苦情相談にはほぼ対応したが、対応後も再発するケースも多々あった。例としては犬のマナー(フンや放し飼い)、不法投棄がある。犬のマナーについては広報等で啓発したり、保健所と連携しながら指導を強化していく。また、不法投棄については、啓発看板の設置やパトロール実施により、かなり減少した。今後も投棄状況を必ず土地所有者に確認してもらい、捨てられないような対策を取るよう啓発を

基本事業名	24 水の安定供給	基本事業担当課	上下水道課
-------	-----------	---------	-------

対象	市民	意図	安定して水の供給を受けられる
----	----	----	----------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 水道普及率(給水人口)	%	(成り行き値)目標値		(97.3) 97.3	(97.4) 97.4	(97.5) 97.5	(97.6) 97.6	(97.7) 97.7
		実績値	97.1	98.2	98.4	98.4		
B		(成り行き値)目標値						
		実績値						
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

- A: 専用水道利用人口、自家水の利用人口(0.5%)への転換を考慮しても、今後人口増による率の増加と同様になることから、平成27年度97.7%と設定した。

8 基本事業の25年度の振り返り(目標達成度評価)と27年度に向けての課題

- A)給水区域内の宅地開発等に伴い給水人口は増加している。水道普及率は昨年に引き続き目標値を上回ったが、今後も給水人口の増加が予想されるため水道施設の計画的整備を進めていく。

基本事業名	25 公営住宅の充実	基本事業担当課	都市計画課
-------	------------	---------	-------

対象	市民	意図	安心して住むことができる
----	----	----	--------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 公営住宅入居率	%	(成り行き値)目標値		(99.0) 100	(99.0) 100	(99.0) 100	(99.0) 100	(99.0) 100
		実績値	97.3	95.7	96.0	93.02		
B 公営住宅に関する苦情件数	件	(成り行き値)目標値		(9) 2	(9) 2	(9) 2	(9) 2	(9) 2
		実績値	7	5	4	6		
C 苦情に対する対応率	%	(成り行き値)目標値		(81.1) 100	(81.1) 100	(81.1) 100	(81.1) 100	(81.1) 100
		実績値	71.4	100	100	100		
D		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

- A: PRを積極的に行ない、平成23年度以降100%として設定した。  
 B: 過去4年間で最も苦情件数の少なかった平成19年度実績値の2件を平成27年度まで設定した。  
 C: 過去4年間で最も対応率の高かった平成19年度実績値の100%を平成27年度まで設定した。

8 基本事業の25年度の振り返り(目標達成度評価)と27年度に向けての課題

- 公営住宅の入居率については、中堅所得者向けの団地について空き室が2~3戸と続いており、また平成23年3月の震災避難者向けに1戸、平成24年7月の熊本広域大洪水避難者向けに2戸を準備していたため実績値は減少した。今後は引き続き、広報やホームページ、また現地に空き室の表示等により募集を行なっていく。住宅に関する苦情については、減少してきているので、対応についても同様に100%の対応を行なっていく。

施策マネジメントシート3(25年度目標達成度評価)

基本事業名	26 公園など身近な住環境の整備	基本事業担当課	都市計画課
-------	------------------	---------	-------

対象	市民	意図	安全に憩うことができる
----	----	----	-------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 市民一人あたり公園面積	㎡	(成り行き値)目標値		(11.3) 11.3	(11.3) 11.3	(11.3) 11.4	(11.3) 11.4	(11.3) 11.4
		実績値	11.3	11.0	10.9	10.8		
B		(成り行き値)目標値						
		実績値						
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A: 宅地化が年間4, 0ha(うち地区計画による宅地化2, 0ha)つつ進むのと公園新設を考えるが、人口増を加味して、平成27年度を11. 4%と設定した。

8 基本事業の25年度の振り返り(目標達成度評価)と27年度に向けての課題

国が示している市民一人あたりの公園面積(11, 0㎡)の基準値には達していたが、年間4~500人の人口増加があることから開発等で小規模の公園が設置されても、実績値は減少している。今後、市街化調整区域において、地区計画等で開発がなされた住宅が密集する地域においては、周辺に見合った規模の公園の設置を検討していく必要がある。

基本事業名	27 みどりの景観の保全	基本事業担当課	農政課
-------	--------------	---------	-----

対象	市内全域	意図	みどりの景観を保全する
----	------	----	-------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 山林面積/市域面積×100	%	(成り行き値)目標値		(12.58) 12.58	(12.52) 12.52	(12.46) 12.46	(12.40) 12.40	(12.34) 12.34
		実績値	12.70	11.86	11.83	11.79		
B 市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の割合	%	(成り行き値)目標値		(42.3) 44.0	(42.3) 44.9	(42.3) 45.7	(42.3) 46.6	(42.3) 47.4
		実績値	42.3	44.8	44.2	45.5		
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A: 開発が可能な所が開発されている現実から、行政による抑制は難しいと考え成り行き値と同等とした。  
B: みどりの景観が保たれていると思う市民の割合は、住んでいる地域で著しく異なると考えるので、市民との協働により緑を増やすことで、平成27年度の目標値を過去4年間の平均値である47. 4%に設定した。

8 基本事業の25年度の振り返り(目標達成度評価)と27年度に向けての課題

農村集落竹林整備事業について、個人での整備も可とし、要件の緩和を行ったことから、事業申請も増加している。

基本事業名		基本事業担当課	
-------	--	---------	--

対象		意図	
----	--	----	--

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A		(成り行き値)目標値						
		実績値						
B		(成り行き値)目標値						
		実績値						
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

8 基本事業の25年度の振り返り(目標達成度評価)と27年度に向けての課題